

事業の実施計画と実施状況

事業計画	実施状況
<p><公益1> 県民スポーツ・文化推進事業 1,054,754千円 (1,057,800千円)</p> <p>1 競技力向上 403,679千円 (351,027千円)</p> <p>(1) 競技力向上対策事業に基づき、本県の競技力の向上を図る。 223,326千円 (225,844千円)</p> <p>① 幼児の運動能力向上事業 3,256千円 (1,440円) 2 巡目国スポの少年選手世代となる園児の基礎運動能力の獲得を目指し、幼稚園・保育所・認定こども園に対して、幼児運動指導の専門家を派遣する。(20園)</p> <p>② 目指せトップアスリート！わかとりっこ育成事業 1,592千円 (1,592千円) 小学生を対象に、スポーツに触れる機会を提供する事で、スポーツに興味を持つ子どもを一人でも多く発掘し、ジュニア育成へと繋げ、未来のトップアスリートを目指すきっかけとするため「わかとりっこ体験会」を実施する。(10競技)</p> <p>③ ジュニア指導者講習会 3,511千円 (3,511千円) ジュニア指導にあたる指導者を対象に講習会を開催することにより、指導者自身の資質向上と県内指導者間の指導方法の共有・周知を図る。(37競技)</p>	<p><公益1> 県民スポーツ・文化推進事業 1,033,421,441円 (920,520,076円)</p> <p>1 339,458,336円 (266,767,479円)</p> <p>(1) 216,180,846円</p> <p>① 3,037,255円 県内20園に対し、1園10回幼児運動指導専門家を派遣。</p> <p>② 856,455円 わかとりっこ体験会 (1回目) 期日 令和4年11月3日 場所 ヤマタスポーツパーク県民体育館 参加者 205名 競技 ボート、ホッケー、ボクシング、卓球、スポーツクライミング、ラグビーフットボール</p> <p>(2、3回目) 期日 令和4年12月4日、18日 場所 鳥取屋内プール、皆生市民プール 参加者 のべ23名 競技 水球</p> <p>③ 2,971,381円 34競技 (陸上、水泳、サッカー、テニス、ボート、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、自転車、ソフトテニス、卓球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ラグビーフットボール、山岳・スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、スキ</p>

④カテゴリー別合同練習会 9,029千円(8,638千円)

小学校高学年と中学1年、中学3年と高校1年など、カテゴリーをまたいで合同練習会を実施する。進学により校種が変わる段階においても、一貫した指導体制を維持し組織的な強化を図る。(37競技)

⑤ジュニアクラブチーム等の育成・支援事業 4,800千円(4,800千円)

特定のジュニアクラブを指定し、クラブチームの育成・活性化・大会参加等について積極的な支援を行うことにより、本県の競技水準の維持向上の基盤を確立するとともに、優秀なジュニア選手の発掘及びジュニア層の強化支援を行う。(20競技24クラブ)

⑥運動部活動活性化事業 28,475千円(28,563千円)

・中学生選抜選手育成・強化支援 7,471千円(7,471千円)

競技団体と中体連専門部が主体となり、県内の中学生から強化選手を選抜して事業を実施することにより中長期的な選手育成と強化を図る。
※中体連全専門部に対する事業実施(20競技)

・高等学校運動部指定合宿等支援 6,805千円(7,000千円)

各高等学校における運動部活動の振興、それに伴う学校の活性化を目的にして各競技の運動部を指定し、強化合宿等支援を行う。

※A指定、B指定に区分をし、配分。(22校28競技66部)

・高等学校運動部指定特別指導者確保支援 6,354千円(6,247千円)

指定校へ指導者配置の支援を行うことにより、競技力の向上を図る。
※城北：相撲、敬愛：バドミントン

一、スケート、トライアスロン)

④8,192,297円

35競技

(陸上、水泳、サッカー、テニス、ボート、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、自転車、ソフトテニス、卓球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、山岳・スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、スキー、スケート、トライアスロン)

⑤4,935,811円

19競技23クラブ

(水泳2、ボート2、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操2、レスリング、自転車、相撲、フェンシング、ライフル射撃、ラグビーフットボール、山岳・スポーツクライミング、カヌー2、空手道、銃剣道、ボウリング、スケート、トライアスロン)

⑥24,865,919円

・7,283,550円

19競技

(陸上、水泳、サッカー、ホッケー、バレーボール、体操、新体操、バスケットボール、ハンドボール、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、剣道、スキー)

・6,550,000円

22校29競技64部

A指定：38部 B指定：26部

・6,354,000円

2校2競技2名

鳥取城北高等学校 相撲 レンツェンドルジ・ガントウクス
鳥取敬愛高等学校 バドミントン 日野由希江

・高等学校運動部指定外部指導者支援 7,845 千円 (7,845 千円)
各高等学校における指定運動部の外部指導者に対する支援を行うことにより、競技力の向上を図る。

⑦県外優秀アスリート受入支援事業 2,100 千円 (2,100 千円)
本県の県立高校へ入学する県外優秀アスリートの受入体制の支援を行う。
@25 千円×12 月×7 人 (ホッケー競技)

⑧特別ジュニア選手指定強化事業 39,142 千円 (39,128 千円)
各競技団体が指定する国体等強化指定選手に対して県内外の強化合宿等に要する経費を補助し、強化事業を展開することによって、国体をはじめとする各種全国大会等での成績向上を図る。(26 競技 28 種目)

⑨鳥取ジュニアアスリート選手育成強化事業 9,885 千円 (9,388 千円)
県直轄の鳥取ジュニアアスリート発掘事業で認定されたジュニアアスリートに対する強化育成事業を実施する (12 競技)

⑩指導者の育成事業 3,537 千円 (3,537 千円)
全国トップレベルの指導者の元に派遣、又は国内外の優秀コーチを招へい訪問等行い、県内の指導者の指導力向上を図る。(26 競技 28 種目)

⑪大学部指定強化事業 550 千円 (550 千円)
協定により大学運動部を指定し、強化事業を実施する。
※A～Dの4区分に分け、国体強化につながる部へ配分する。
(2 大学 6 部)

・4,678,369 円
外部指導者支援 9 校 21 名

⑦1,800,000 円
県外優秀アスリートを八頭高校 (ホッケー部) に 6 名受入

⑧41,194,360 円
26 競技
(陸上、水泳、テニス、ボート、ホッケー、バレーボール、体操、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、自転車、卓球、相撲、馬術、バドミントン、弓道、ライフル射撃、山岳・スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、ボウリング、スキー、スケート、トライアスロン)

⑨9,547,570 円
11 競技
(ボート、ホッケー、レスリング、セーリング、自転車、ライフル射撃、山岳・スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、トライアスロン)

⑩2,997,824 円
25 競技
(陸上、水泳、サッカー、ボート、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、自転車、ソフトテニス、相撲、馬術、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、山岳・スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、スキー、トライアスロン)

⑪400,000 円
2 大学 3 部
鳥取大学 (ボート、アイスホッケー)
米子工業高等専門学校 (ヨット)

⑫社会人等選手指定強化事業 26,949千円(26,949千円)

各競技団体が指定する国体等強化指定選手に対して県内外の強化合宿等に要する経費を補助し、集中的な強化事業を展開することによって、国体をはじめとする各種全国大会等での成績向上を図る。(27競技29種目)

⑬成年団体競技強化チーム事業 1,519千円(1,519千円)

県内において高い競技力を持った社会人クラブチームを指定し、対外試合を中心とした県外遠征に対して補助を行う。

※チアフル鳥取(バドミントン)・米子クラブ(アイスホッケー)へのチーム支援。

⑭優秀選手確保事業 1,000千円(2,000千円)

成年期の競技力向上のために、県外の優秀選手を雇用する県内企業等に補助をする。@1,000千円×1名

⑮特別指定競技国体強化事業 12,110千円(12,110千円)

令和3年度から5年間のビジョン、強化策等プレゼンテーションの結果を踏まえ、県内外の強化合宿等に要する経費を補助し、集中的な強化事業を展開することによって、国体での成績向上を図る。

(9競技10種目)

⑯医・科学サポート事業 5,695千円(6,366千円)

医事・栄養・ドーピングを含むトレーナー育成関係の講習会の開催や、栄養知識及び普及に関する講習会の開催のほか、筋力トレーニング等の充実・県外スポーツ診療関連施設への選手派遣を行い、マルチサポート体制の充実を図る。

⑫26,035,198円

27競技

(陸上、水泳、テニス、ボート、ホッケー、体操、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、自転車、卓球、軟式野球、相撲、馬術、バドミントン、弓道、ライフル射撃、山岳・スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、クレール射撃、ボウリング、スキー、スケート、トリアスロン)

⑬1,519,000円

2競技2クラブ

バドミントン(チアフル鳥取)

アイスホッケー(米子アイスホッケークラブ)

⑭1,000,000円

令和4年4月採用1名、令和4年9月採用1名

(雇用6か月経過後、500千円補助)

⑮12,662,724円

9競技

(サッカー、ボクシング、体操(新体操、トランポリン)、バスケットボール、ソフトテニス、フェンシング、柔道、ソフトボール、ラグビーフットボール)

⑯2,809,833円

27競技

(陸上、水泳、サッカー、ボート、ホッケー、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、自転車、ソフトテニス、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ラグビーフットボール、山岳・スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、スキー、トリアスロン)

・トレーナー養成講習会

第1回 令和4年5月21日(土)倉吉体育文化会館 7名

第2回 令和4年11月23日(水)倉吉体育文化会館 15名

第3回 令和5年2月25日(土)倉吉体育文化会館 16名

⑰強化練習用消耗品等対策事業 17,877千円(17,014千円)

国民体育大会に参加する上で、消耗品・使用料・作曲料・運搬料等において、その特殊性を考慮し補助を行う。(12競技13種目)

⑱安全管理対策事業 1,902千円(1,591千円)

国体候補選手のスポーツ安全保険への加入を補助することにより、強化事業に専念できる体制を整える。(41競技)

⑲国体等強化備品整備 28,864千円(33,871千円)

国体(中国ブロック大会)や強化に必要な強化備品の整備を行う。
(11競技)

⑳公認指導者資格取得・更新補助事業 97千円(97千円)

国民体育大会の監督資格要件として必要な日本スポーツ協会公認指導者資格の取得及び更新に係る経費の1/2補助を実施する。

㉑強化推進事業 21,436千円(21,080千円)

・強化推進事業費(事務費) 1,080千円(1,080千円)

競技団体との連絡・調整・指導等

・競技力向上担当人件費 20,356千円(20,000千円)

競技力向上対策事業を受託執行するための3名の人件費

(2)わかとり国体開催記念スポーツ振興事業 650千円(850千円)

【激励関係】

第4回 令和5年3月11日(土)倉吉体育文化会館 30名

・チームドクター派遣(24回)

⑰19,084,349円

12競技

(水泳、ボート、体操、セーリング、自転車、馬術、山岳・スポーツクライミング、カヌー、クレール射撃、スキー、スケート、アイスホッケー)

⑱1,580,596円

35競技

(陸上、水泳、サッカー、ボート、ホッケー、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、自転車、ソフトテニス、卓球、相撲、馬術、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、山岳・スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、クレール射撃、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、スケート、アイスホッケー、トライアスロン)

⑲30,125,302円

12競技

(陸上、水泳、ボート、ホッケー、体操、レスリング、セーリング、自転車、フェンシング、ライフル射撃、山岳・スポーツクライミング、カヌー)

⑳201,900円

7競技

(サッカー、バレーボール、バドミントン、剣道、アーチェリー、クレール射撃、なぎなた)

㉑20,363,072円

・1,640,461円

各種委員会の開催、競技団体との意見交換会等に係る経費、その他事務費

・18,722,611円

3名配置

(2)414,259円

ア 国民体育大会入賞奨励金支給事業

国民体育大会において入賞した競技(種別)に対し報奨金を支給する。

【その他】

イ 強化推進費

鳥取県スポーツ協会が競技力向上を推進していくために必要となる経費。

(3) 国体予選会の開催及び国体等の選手団派遣を行う。

155,901千円(100,004千円)

①国体予選会の開催 4,820千円(2,820千円)

- ・国体選手選考のための県予選会の開催を競技団体へ委託する。
40競技 2,820千円(2,820千円)
- ・(臨)新型コロナウイルス感染対策 2,000千円(0千円)

②中国ブロック大会及び全国予選会への選手団派遣

47,359千円(36,946千円)

広島県で開催される国民体育大会中国ブロック大会及びフィギュアスケート全国予選会へ選手団を派遣する。

期 日 令和4年5月～12月

会 場 広島県内の各会場等

競技種目 水泳(水球)他32競技

③第77回本国体及び特別国体冬季大会への選手団派遣

74,064千円(58,951千円)

- ・栃木県で開催される第77回国民体育大会(会期前・本大会)に選手団を派遣する。

ア 17競技45種目入賞

(陸上、水泳、ボート、ボクシング、バレーボール、レスリング、セーリング、自転車競技、相撲、馬術、弓道、ライフル射撃、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、トライアスロン、スケート)

イ 競技団体への激励品等の支給。

(3) 99,578,088円

①4,128,222円

- ・2,693,763円
国体選手選考のための県予選会を競技団体へ委託 40競技
- ・1,434,459円
(臨)新型コロナウイルス感染対策

②32,192,122円

中国ブロック大会及び全国予選会

- ・本大会 31競技 727名派遣
期 日 令和4年5月21(土)～8月28日(日)
会 場 広島県内の各会場等
競技種目 水泳(水球)他30競技
- ・冬季 1競技 29名派遣
期 日 令和4年12月10日(土)～12月11日(日)
会 場 ひろしんビッグウェーブ(広島県)
競技種目 アイスホッケー
- ・フィギュアスケート競技全国予選会 1競技 8名派遣
期 日 令和4年12月3日(土)～12月4日(日)
会 場 滋賀県立アイスアリーナ(滋賀県)

③55,369,692円

第77回本国体及び特別国体冬季大会への選手団派遣

- ・第77回国民体育大会(会期前・本大会)
(会期前)

(本大会及び会期前)

期 日 令和4年10月1日～10月11日

※会期前実施競技は2022年9月10日～9月19日

競技種目 陸上競技他36競技

・特別国体冬季大会に選手団を派遣する

(スケート・アイスホッケー競技)

期 日 令和5年1月28日～2月5日

場 所 青森県八戸市・南部町

(スキー競技)

期 日 令和5年2月17日～2月20日

場 所 岩手県八幡平市

④国体等派遣選手指導費 1,287千円(1,287千円)

県内外の各種大会や強化事業に出向き、競技団体との情報交換、戦力分析や競技力向上のための情報収集活動を行う。

⑤(臨)新型コロナウイルス感染症対策費 28,371千円(0千円)

・中国ブロック大会及び全国予選会 16,880千円(0千円)

PCR検査代(中国ブロック大会に出場するための往復PCR検査代)

・第77回国体及び特別国体冬季大会 11,491千円(0千円)

PCR検査代(国体に出場するための往復PCR検査代)

体調不良者搬送対応費(現地にて体調不良者発生時に搬送するためのレンタカー費用等)

(4)競技力向上のための指導者確保事業 11,600千円(12,432千円)

鳥取県の競技力向上のため、優秀な指導者を確保し、指導体制の充実を図るとともに、専門性を生かしながらトップアスリートの育成を図る。

※ホッケー競技・セーリング競技

(5)JOC競技別強化拠点(セーリング・クライミング)整備等事業

・コーチングスタッフの確保 11,512千円(11,207千円)

JOC競技別強化センターとして認定を受けた境港公共マリーナ及び倉吉体育文化会館における競技力向上のための機能や利便性の向上を図

期 日 令和4年9月10日(土)～9月19日(月)

競技種目 水泳、体操、バレーボール、弓道 4競技 54名派遣

(本国体)

期 日 令和4年10月1日(土)～10月11日(火)

競技種目 陸上競技 他34競技 271名派遣

・特別国体冬季大会へ選手団を派遣

(スケート・アイスホッケー競技)

期 日 令和5年1月28日(月)～2月5日(日) 11名派遣

場 所 青森県八戸市・南部町

(スキー競技)

期 日 令和5年2月17日(金)～2月20日(月) 39名派遣

場 所 岩手県八幡平市

④1,095,108円

情報収集活動等に伴う旅費交通費、燃料費、賃借料

⑤6,792,944円

・4,090,740円

PCR検査キット及び抗原検査キットを購入し、出場する監督・選手他へ配布

・2,702,204円

PCR検査キット及び抗原検査キットを購入し、出場する監督・選手他へ配布

(4)11,648,000円

体育指導員2名配置 (ホッケー、セーリング)

(5)11,250,428円

体育指導員(コーチングスタッフ)2名配置

るために必要な整備を行う。

(6) アンチ・ドーピング教育・啓発事業 (日本スポーツ協会委託事業)

200 千円 (200 千円)

- ・指導者、選手を対象とした講習会を開催する。
- ・アンチ・ドーピングに関する啓発を行う。

(7) 賛助会費事業 490 千円 (490 千円)

①ジュニア期の一貫指導・育成支援事業 400 千円 (400 千円)

全国での入賞実績のない高校運動部を指定し、全国レベル到達を目的に支援を行う。

②総合型地域スポーツクラブ育成支援事業 30 千円 (30 千円)

総合型地域スポーツクラブが指導者を招聘して教室開催等を行うことにより、会員確保やクラブ活性化を図る。

③賛助会員体育施設利用券の発行 30 千円 (30 千円)

鳥取県スポーツ協会が管理する指定管理及び所有する施設の利用券を交付する。

④賛助会運営費 30 千円 (30 千円)

鳥取県スポーツ協会が賛助会を運営していくために必要となる経費。

(6) 12,055 円

1 回目 令和 4 年 8 月 30 日 (火) 白兔会館 飛翔の間 43 名

2 回目 令和 4 年 9 月 22 日 (木) 鳥取県民体育館 メインアリーナ 75 名

(7) 374,660 円

①359,600 円

高校運動部 8 校 18 部

②0 円

③8,680 円

発行枚数 : 304 枚

利用枚数 : 20 枚 (布勢総合運動公園 11 枚、鳥取産業体育館 2 枚、皆生市民プール 7 枚)

④6,380 円

表彰経費等で支出

2 生涯スポーツ推進 43,546千円(46,688千円)

(1) 広域スポーツセンター事業 30,535千円(24,887千円)

①総合型地域スポーツクラブ運営改善事業 320千円(320千円)

総合型地域スポーツクラブが抱える問題を解消するため、クラブ創設・運営に関する指導者を派遣し、運営改善を図る。(研修会1回 派遣2回)

②クラブアドバイザー配置事業 5,622千円(5,671千円)

総合型地域スポーツクラブの設立・運営支援等を行うためクラブアドバイザー(1名)を配置する。

③クラブアシスタントマネジャー研修事業 120千円(120千円)

総合型地域スポーツクラブのマネジメントに必要な基礎知識を有する人材を養成するため、総合型地域スポーツクラブ、市町村教育委員会、スポーツ推進委員を対象とした資格取得のための研修会を行う。
(年1回)

④県民まるごとスポーツ推進事業 3,494千円(3,494千円)

2 34,610,878円(31,692,668円)

(1) 25,521,198円

①300,124円

・研修会

日時 令和4年10月15日(土)

場所 倉吉体育文化会館

講師 松田 雅彦氏(大阪教育大学附属高校平野校舎 教諭)

内容 総合型地域スポーツクラブの課題を考える講演とワークショップ

受講者 15名

・指導者派遣①

日時 令和4年6月11日(土)

場所 鹿野町農業者トレーニングセンター

講師 松田 雅彦氏(大阪教育大学附属高校平野校舎 教諭)

内容 総合型地域スポーツクラブの課題を考える講演とワークショップ

受講者 12名

・指導者派遣②

日時 令和5年3月12日(日)

場所 北栄町B&G海洋センター

講師 松田 雅彦氏(大阪教育大学附属高校平野校舎 教諭)

内容 総合型地域スポーツクラブの課題を考える講演とワークショップ

受講者 13名

②5,285,427円

1名配置

③153,413円

日時 令和4年7月9日(土)、10日(日)

場所 倉吉体育文化会館

講師 渡辺 泰弘氏(広島経済大学経済学部准教授)

内容
・クラブマネジャーの役割、クラブの運営
・総合型地域スポーツクラブとは、クラブの現状、クラブの作り方

受講者 3名

④3,682,200円

・親子 de スポーツ推進事業（総合型） 977 千円（977 千円）

子育て世代を中心として、親子で運動・スポーツに親しむ機会を提供することにより、スポーツを楽しむ意識高揚とスポーツ振興を図ることを目的とし、総合型地域スポーツクラブが親子向け運動教室を開催することを支援する。

（9 クラブ）

・親子 de スポーツ推進事業（競技団体） 1,300 千円（1,300 千円）

子育て世代を中心として、親子で運動・スポーツに親しむ機会を提供することにより、スポーツを楽しむ意識高揚とスポーツ振興を図ることを目的とし、競技団体が親子向け運動教室を開催することを支援する。

（10 競技）

・みんな de ユニスポ推進事業 1,217 千円（1,217 千円）

年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、すべての人が気軽にスポーツを楽しむ機会を提供することを目的とし、総合型地域スポーツクラブが幅広い層を対象としたスポーツ機会を提供することに対して支援する。（4 クラブ）

⑤鳥取県スポーツ情報サイト運用・保守料等事業 824 千円（1,313 千円）

県内スポーツ施設、スポーツイベント、鳥取へのアクセスマップ及び宿泊施設等の情報に加え、各種支援制度をまとめた専用サイトを運用する。

⑥第23回県民スポーツ・レクリエーション祭開催事業 7,791 千円
（7,791 千円）

広く県民にスポーツ・レクリエーション活動を全県的な規模で実践する場を供することにより、県民一人一人に参加意欲を喚起し、県内各地で生涯を通じたスポーツ・レクリエーション活動の活性化を進める。

・夏季大会 5 種目

期 日 2022年8月27日～28日

会 場 西部地区中心に全県で開催

・秋季大会 34 種目

期 日 2022年10月22日～23日

【親子 de スポーツ（総合型）】 1,078,669 円

- ・地域スポーツ推進協会（親子で行うトランポリン&バク転教室）
- ・かほくスポーツクラブ（親子スポーツクライミング体験）
- ・スポーツしょい大山（親子でバドミントン教室）
- ・ウルTRASポーツクラブ（親子サッカー・トランポリン・体育教室）
- ・ほうきスマイリースポーツクラブ（親子 de アウトドア・体操、凧あげ教室）

【親子 de スポーツ（競技団体）】 1,430,990 円

- ・鳥取県ボート協会
- ・鳥取県バドミントン協会
- ・鳥取県空手道連盟
- ・鳥取県山岳・スポーツクライミング協会
- ・鳥取県トライアスロン協会

【みんな de ユニスポ】 1,172,541 円

- ・地域スポーツ推進協会（みんなでポッチャ体験）
- ・サンリンク・スポーツ（みんな de モルック・ポッチャ）
- ・スポーツしょい大山（みんな de ニュースポーツ）
- ・ウルTRASポーツクラブ（みんな de ヨガ・サッカー・たいいく教室）
- ・琴の浦クラブ（ニュースポーツ体験教室）
- ・青谷スポーツクラブ（あおやまるとスポーツ体験会）

⑤824,320 円

スポーツイベント、スポーツ施設、宿泊施設等の情報を掲載外部接続部に適正なファイアウォールを整備

⑥7,383,851 円

○夏季大会 5 種目

※新型コロナウイルス感染症防止のためビーチバレーボール他1種目中止

期 日 2022年（令和4年）8月27日（土）～28日（日）他

会 場 西部地区を中心に開催

参加人数 547名（前年度 0名）

○秋季大会 34 種目

期 日 2022年（令和4年）10月22日（土）～23日（日）を中心に実施

会 場 西部地区を中心に開催

※新型コロナウイルス感染症防止のためボウリング他4種目中止

会 場 西部地区中心に全県で開催
 ・冬季大会 5種目
 期 日 2023年2月12日
 会 場 西部地区中心に全県で開催

⑦大韓民国江原道とのスポーツ交流事業 3,500千円(0千円)
 本県スポーツ協会と江原道体育会との協定(2001年11月6日協定)
 に基づき、両県道のスポーツ交流を行い、競技力の向上と友好親善を
 図る。

令和3年度は令和2年度と同様に新型コロナウイルスの影響で延期と
 なったため、令和4年度は鳥取県が江原道を訪問。

・スポーツ交流大会 ※競技については、江原道と協議する。

期 日 2022年12月(予定)

参加者 3競技の監督、選手、スポ協役員等

【鳥取県－江原道スポーツ交流事業 過去交流大会】

回数	期 日	場 所	参加人数	
			鳥取県	江原道
第1回	H13.11.5~9	春川市	24名	29名
第2回	H14.6.24~27	米子市	43名	33名
第3回	H15.11.10~13	束草市	34名	38名
第4回	H16.7.26~29	大山町	40名	31名
第5回	H17.7.26~29	江陵市	33名	37名
第6回	H18.7.25~28	米子市	46名	37名
第7回	H19.12.4~7	原州市	36名	43名
第8回	H20.11.18~21	鳥取市	49名	36名
第9回	H21.12.4~8	東海市	41名	49名
第10回	H22.12.3~7	鳥取市	41名	35名

参加人数 6,594名(前年度 5,811名)

○冬季大会 5種目

期 日 2023年(令和5年)2月12日(日)他

会 場 西部地区を中心に開催

参加人数 508名(前年度 64名)

⑦0円

新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより令和2年度から3年続けて
 中断となった。

第11回	H23.12.2～6	春川市	38名	38名
第12回	H24.11.30～12.4	米子市	56名	37名
第13回	H25.11.29～12.3	春川市	42名	47名
第14回	H26.11.28～12.2	米子市	57名	41名
第15回	H27.12.11～15	原州市	40名	39名
第16回	H28 震災の為に中止			
第17回	H29.12.8～12	鳥取市	43名	40名
第18回	H30.12.7～11	春川市	45名	45名
第19回	R元.12.6～10	鳥取市	48名	41名
第20回	R2 新型コロナの為に中止			
第21回	R3 新型コロナの為に中止			

⑧広域スポーツセンター人件費 8,214千円(6,178千円)
広域スポーツセンターの事業を受託執行するための1名分の人件費。

⑨(新) スポトピアとっとりフェスタ開催事業 650千円(0千円)
総合型地域スポーツクラブと連携し、国民の祝日である「スポーツの日」の関連行事として、スポーツの楽しさや喜びを伝える「スポトピアとっとりフェスタ」を県内3地区で開催する。

(2) スポ協表彰事業 1,209千円(1,225千円) 自
スポーツ振興を図るため、表彰規程に基づき本県スポーツの発展に功績のあった者、優秀な選手を育成した指導者、全国大会等で優秀な成績を挙げた選手について、表彰選考委員会の審議により表彰者を決定し、表彰する。

期 日 令和5年2月18日(土)

場 所 白兔会館

表彰内訳

優良団体賞 2団体程度

体育功労章 若干名

⑧6,927,186円
1名配置

⑨964,677円

期 日 ・令和4年12月11日(日) 北栄町B&G海洋センター 80人
・令和5年1月21日(土) 鳥取県民体育館 94人
・令和5年1月22日(日) 米子市民体育館 129人

内 容 本県所縁のアスリートである、入江聖奈氏、立岡ほたる氏を招聘し、県民が気軽に参加できるスポーツ教室等を実施して交流した。

(2) 734,682円

令和4年度鳥取県スポーツ協会表彰者

優良団体 2団体

体育功労章 5名

優秀指導者賞 6名

特別賞 4名

スポーツ賞 (個人) 56名 (団体) 11チーム・64名

スポーツ敢闘賞 (個人) 66名 (団体) 6チーム・28名

優秀指導者賞	若干名
特別賞	国際大会出場者等
スポーツ賞	全国大会等上位入賞
スポーツ敢闘賞	全国大会等下位入賞
スポーツ奨励賞	全国規模大会入賞者

(3) 公認コーチ養成事業 1,260 千円 (1,569 千円)

①公認コーチ養成講習会の開催 (日本スポーツ協会委託事業)
866 千円 (1,200 千円)

- ・公認コーチ1養成講習会 バドミントン競技
- ・公認コーチ2養成講習会 卓球競技
- ・公認共通科目Ⅱ養成講習会

②公認コーチ育成事業 (日本スポーツ協会委託事業) 394 千円 (369 千円)

- ・スポーツ指導者研修会の開催 年2回
- ・指導者育成関係事業事務費

(4) スポーツ少年団の育成 (日本スポーツ協会助成事業等)

4,694 千円 (4,455 千円)

①県競技別交流大会開催事業 470 千円 (559 千円)

各地区を代表するスポーツ少年団による県交流大会を開催する。

スポーツ奨励賞 (個人) 24名 (団体) 4チーム・12名

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、優良団体賞、体育功労章、優秀指導者賞、スポーツ賞のうち1位を獲得した選手のみの出席。

(3) 1,202,483 円

①735,419 円

- ・公認バドミントンコーチ1養成講習会
期 日：令和4年8月27日(土)～28日(日)
会 場：倉吉交流プラザ、北栄町北条体育館
参加人数：25名
- ・公認卓球コーチ2養成講習会
期 日：令和4年9月10日(土)、18日(日)
会 場：倉吉市スポーツセンター体育館・研修室
参加人数：14名
- ・公認共通科目Ⅱ養成講習会
期 日：令和4年10月15日(土)～16日(日)
会 場：倉吉未来中心
参加人数：11名

②467,064 円

- ・第1回
期 日：令和4年9月4日(日)
会 場：米子コンベンションセンター
参加人数：72名
- ・第2回
期 日：令和4年11月6日(日)
会 場：倉吉体育文化会館
参加人数：70名

(4) 3,075,649 円

①461,050 円

・軟式野球大会

期 日 令和4年7月2日(土)、3日(予備日)
会 場 赤碕総合運動公園(野球場)

・ミニバスケットボール大会

期 日 令和4年10月2日(日)
会 場 米子産業体育館

・剣道大会

期 日 令和4年10月30日(日)
会 場 名和農業者トレーニングセンター

・バレーボール大会

期 日 令和4年12月11日(日)
会 場 米子産業体育館

②中国ブロックスポーツ少年団競技別交流大会開催事業 670千円
(670千円)

各県のスポーツ少年団による競技別交流大会を開催する。

期 日 令和4年8月20日(土)～21日(日)
交流競技 軟式野球
会 場 船上山少年自然の家(宿泊)
赤碕総合運動公園(野球場)及び東伯総合運動公園(野
球場)

③中国大会派遣事業 436千円(344千円)

各県で開催される中国ブロック競技別交流大会へ本県代表のスポー
ツ少年団を派遣する。(スポーツ少年大会、リーダー研究大会(山口県)・
男子バレーボール(島根県)・ティボール(岡山県)・ソフトボール(広

県競技別交流大会の開催

・軟式野球交流大会

期 日: 令和4年7月23日(土)
会 場: 琴浦町赤碕総合運動公園 野球場
参加単位団数: 3単位団(東部1団、中部1団、西部1団)
参加人数: 54名

・ミニバスケットボール交流大会

期 日: 令和4年10月2日(日)
会 場: 米子産業体育館
参加単位団数: 6単位団(東部2団、中部2団、西部2団)
参加人数: 101名

・剣道交流大会

期 日: 令和4年10月30日(日)
会 場: 名和農業者トレーニングセンター
参加単位団数: 6単位団(東部0団、中部4団、西部2団)
参加人数: 43名

・バレーボール交流大会

期 日: 令和4年12月11日(日)
会 場: 米子産業体育館
参加単位団数: 11単位団(男子5単位団、女子単位6団)
(東部4団、中部3団、西部4団)
参加人数: 140名

②0円
新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止

③0円
・スポーツ少年大会、リーダー研究大会(山口県)
・男子バレーボール(島根県)

島県))

④全国大会派遣事業 201 千円 (126 千円)

全国で開催されるスポーツ少年団交流大会へ本県代表のスポーツ少年団を派遣する。(剣道(新潟県)・バレーボール男子、女子(静岡県))

⑤中央講習会派遣事業 10 千円 (15 千円)

新規インストラクター養成のための研修会へ派遣する。

・インストラクター(スポーツ少年団)養成講習会

⑥スタートコーチ(スポーツ少年団)養成講習会の開催 250 千円
(250 千円)

単位団運営において最低2名以上必要な、スタートコーチ(スポーツ少年団)資格を取得できる講習会を開催する。

期 日 令和4年11月20日(日)

会 場 鳥取県立倉吉体育文化会館

⑦ジュニア・リーダースクール開催事業 115 千円 (115 千円)

日本スポーツ少年団リーダー制度におけるジュニア・リーダー資格を取得できる講習会を開催する。

期 日 令和4年9月17日(土)～18日(日)

会 場 鳥取県立船上山少年自然の家

⑧地区別交流大会開催費 421 千円 (421 千円)

本県東・中・西部地区の市町村で開催される交流大会費用を助成する。

⑨地区別指導者研修費 151 千円 (151 千円)

本県東・中・西部地区の市町村で開催される指導者研修費用を助成する。

・ティボール(岡山県)
・ソフトボール(広島県)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため各交流大会の開催中止

④154,961 円

・第45回全国スポーツ少年団剣道交流大会(新潟県)

期日:令和5年3月25日(土)～27日(月)

・第20回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会(静岡県)

期日:令和5年3月24日(金)～27日(日)

⑤0 円

・スタートコーチ(スポーツ少年団)インストラクター移行研修会
参加者なし

・スタートコーチ(スポーツ少年団)インストラクター養成講習会
参加者なし

⑥274,000 円

期 日:令和4年11月20日(日)

会 場:倉吉体育文化会館

参加人数:57名

⑦0 円

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止

⑧388,117 円

・東・中・西部地区に助成。

⑨80,220 円

・東・西部地区に助成。

⑩スポーツ少年団本部運営費 1,970千円 (1,804千円)

(5) スポーツ安全保険業務 4,997千円 (4,345千円)

公益財団法人スポーツ安全協会と業務及び経費について協定を交わし、スポーツ安全保険業務を行う。

(6) 施設基金実施事業 351千円 (9,352千円)

①ガイナレ鳥取支援事業 51千円 (51千円)

ガイナレ鳥取に対し、県ス協としても可能な支援を行い、本県スポーツの充実を図るとともに地域活性化に寄与する。

⑩1,717,301円

スポーツ少年団本部運営事業

・ 常任委員会

第1回常任委員会

期 日：令和4年6月3日(金)

会 場：倉吉体育文化会館

第2回常任委員会 書面決議

・ 委員総会

第1回委員総会

期 日：令和4年7月5日(火)

会 場：倉吉体育文化会館

第2回委員総会

期 日：令和5年3月27日(月)

会 場：倉吉体育文化会館

・ 第44回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会視察

期 日：令和4年8月4日(木)～7日(日)

会 場：佐藤薬品スタジアム他(奈良県橿原市)

・ 第46回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会会場調整会

期 日：令和4年9月16日(金)

会 場：米子産業体育館

・ 令和4年度スポーツ少年団登録数

指導者登録数：456名(440名)

団員登録数：2,854名(3,078名)

(5) 3,431,000円

協定期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日

加入団体数：1,241団体

加入者数：39,916人

掛金合計：42,790,300円

(6) 326,260円

①50,110円

ガイナレ鳥取への支援

クラブスポンサーとして支援

②備品整備事業 300千円(300千円)

県民スポーツ・文化推進事業を円滑に行えるよう、備品の整備を行う。
・公用車(軽自動車)の維持・修繕等

(終了)2020東京オリパラ・世界選手権合宿誘致事業 0千円
(9,001千円)

(7)スポーツスクエア整備事業 500千円(750千円)

本県のスポーツ・体育の歴史を紹介する展示物を展示することで県民のスポーツへの興味・関心を高める目的で管理施設(布勢総合運動公園他)のスポーツ展示スペースの整備を行う。

②276,150円

公用車のリース料及び法定点検等整備

(7)319,606円

とっとりスポーツスクエアの展示

①令和3年度からの企画展示

・常設展示

期日:令和3年12月7日(火)~令和4年9月19日(月)

会場:展示場所 鳥取県民体育館

展示内容:①「鳥取県に縁のあるプロ野球選手たち」

連続企画「鳥取の体育・スポーツのあけぼの」

第2回「高校野球の歴史」

・巡回展示

【中部】

期日:令和4年4月27日(水)~令和4年6月26日(日)

会場:倉吉体育文化会館

【西部】

期日:令和4年6月27日(月)~令和4年8月31日(水)

会場:米子産業体育館

②令和4年度企画展示

期日:令和4年12月20日(火)~令和5年9月18日(日)

会場:展示場所 鳥取県民体育館

展示内容:「鳥取の陸上」

①日本記録を体感しよう

②鳥取から世界へ!オリンピック・パラリンピアン列伝

連続企画「鳥取の体育・スポーツのあけぼの」

第3回「陸上黎明期の“いだてん”たち」

指定管理施設 運営状況一覧

令和5年3月31日現在

		公益事業 + 収益事業					収益事業	合計
		鳥取県立 布勢総合運動公園	鳥取県立 鳥取産業体育館 鳥取県営 鳥取屋内プール	米子市 皆生市民プール	鳥取県立 米子産業体育館	鳥取県立武道館	鳥取県立 倉吉体育文化会館	
利用人数	計画	931,600人	76,000人 49,000人	87,000人	140,000人	111,000人	198,000人	1,592,600人
		(936,100人)	(70,000人) (65,000人)	(87,000人)	(139,000人)	(109,000人)	(196,000人)	(1,602,100人)
	実績	830,944人	80,734人 51,791人	79,069人	117,050人	96,615人	89,589人	1,345,792人
		(753,000人)	(76,937人) (49,429人)	(76,422人)	(90,761人)	(70,187人)	(74,057人)	(1,190,793人)
利用収入等金額	計画	57,395,000円	26,400,000円	22,520,000円	29,700,000円	12,940,000円	20,437,000円	169,392,000円
		(57,335,000円)	(31,844,000円)	(21,300,000円)	(29,300,000円)	(12,970,000円)	(20,337,000円)	(173,086,000円)
	実績	57,331,648円	26,625,057円	18,808,027円	18,943,022円	12,685,305円	15,342,767円	149,735,826円
		(48,745,134円)	(21,097,614円)	(15,439,089円)	(16,788,923円)	(10,237,887円)	(14,706,471円)	(127,015,118円)
県委託料	予算	290,260,000円	66,227,000円		33,080,000円	67,529,000円	55,673,000円	512,769,000円
		(287,980,000円)	(66,195,000円)		(33,080,000円)	(67,537,000円)	(61,336,000円)	(516,128,000円)
	実績	301,447,488円	72,605,711円		34,975,406円	70,627,944円	57,205,174円	536,861,723円
		(289,880,696円)	(66,205,370円)		(33,081,728円)	(66,524,622円)	(60,418,713円)	(516,111,129円)
米子市委託料	予算			51,070,000円				51,070,000円
				(51,000,000円)				(51,000,000円)
	実績			51,070,000円				51,070,000円
				(51,000,000円)				(51,000,000円)
スポーツ（文化）教室		【スポーツ教室】 卓球初級教室他31教室	【体育館】 卓球教室他14教室 【プール】 小学生教室他15教室	【スポーツ教室】 バドミントン初級教室他9教室 【水泳教室】 幼児水泳教室21教室	【スポーツ教室】 サッカー教室他11教室 【短期教室】 バドミントン教室他2教室	【スポーツ教室】 ・年間教室 柔道・小学生教室他28教室 ・短期教室 体操体育短期集中合宿他2教室	【スポーツ教室】 健康づくり教室他16教室 【文化教室】 パソコン教室他9教室	
		【スポーツ】 ナイター陸上大会他7種 【いきいき健康長寿】 開長杯争奪CG大会他7種 【体験学習】 寄せ植え教室他2種 【交流】 堆肥の無料配布他8種	【スポーツ】 ローンカップ小学生卓球大会他6イベント 【その他イベント】 花ショウワブ展示会他1イベント	【スポーツ】 バドミントン教室体験会他4イベント 【地域貢献】 ・浮いて待て講習会 ・水辺の安全教室 ・救命救急講習会	新体換発表会	・小学生柔道大会 ・小学生剣道大会 ・武道合同体験会 ・初稽古会 ・空手道教室審査会	【スポーツイベント】 ホルダリングコンペティション他4イベント 【その他イベント】 体文祭他2イベント	
指定管理期間		平成31年4月1日～ 令和6年3月31日	平成31年4月1日～ 令和6年3月31日	令和3年4月1日～ 令和8年3月31日	平成31年4月1日～ 令和6年3月31日	平成31年4月1日～ 令和6年3月31日	平成31年4月1日～ 令和6年3月31日	
備考		陸上競技場改修工事 9月～3月						

※カッコ内は前年度

事業計画	実施状況																				
<p>3 体育施設管理・運営 655,683千円(657,039千円) 鳥取県及び米子市から指定管理者に指名された体育施設の有効な活用と適正な管理運営を行い、県民の体力増強とスポーツ振興を図る。</p> <p>(1) 布勢総合運動公園 346,900千円(344,561千円)</p> <table border="0"> <tr> <td>令和4年度施設利用見込人数</td> <td>931,600人</td> </tr> <tr> <td>(令和3年度利用見込人数)</td> <td>(936,100人)</td> </tr> <tr> <td>令和4年度収入見込額</td> <td>57,395千円</td> </tr> <tr> <td>(令和3年度収入見込額)</td> <td>(57,335千円)</td> </tr> </table>	令和4年度施設利用見込人数	931,600人	(令和3年度利用見込人数)	(936,100人)	令和4年度収入見込額	57,395千円	(令和3年度収入見込額)	(57,335千円)	<p>3 659,352,227円(622,059,929円)</p> <p>(1) 布勢総合運動公園 358,352,266円(339,516,606円)</p> <p>①利用人数および収入増減理由</p> <p>ア 利用人数</p> <table border="0"> <tr> <td>令和4年度施設利用者数</td> <td>830,944人</td> </tr> <tr> <td>(令和3年度実績)</td> <td>753,000人</td> </tr> <tr> <td>増減</td> <td>77,944人</td> </tr> </table> <p>【増減理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年対比若干の増である。コロナ関係での利用減(大会、イベントの中止等含む)が緩和により増加していることが主な要因と考えられる。 <p>イ 収入(自動販売機収入含む)</p> <table border="0"> <tr> <td>令和4年度収入額</td> <td>57,331,648円</td> </tr> <tr> <td>(令和3年度実績)</td> <td>48,745,134円</td> </tr> <tr> <td>増減</td> <td>8,586,514円</td> </tr> </table> <p>【増減理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年対比若干の増である。利用人数と同様の理由により、来園者が増えたことにより利用料や自販機の売り上げが伸びたことなどが考えられる。 <p>②事業実施状況</p> <p>ア施設管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修繕業務 <p>件数：61件 合計金額10,782,085円</p> <p>非常に厳しい経営状況の中、法令遵守や安全確保等を優先に選定して修繕を行った。</p> <p>このうち、漏水関係が全体の約35%、その他長期老朽化に関するものが全体の約14%となっている。漏水も含め、基本的な設備が長年の劣化により影響を与えているものが増えており、今後も増加していく可能性が</p>	令和4年度施設利用者数	830,944人	(令和3年度実績)	753,000人	増減	77,944人	令和4年度収入額	57,331,648円	(令和3年度実績)	48,745,134円	増減	8,586,514円
令和4年度施設利用見込人数	931,600人																				
(令和3年度利用見込人数)	(936,100人)																				
令和4年度収入見込額	57,395千円																				
(令和3年度収入見込額)	(57,335千円)																				
令和4年度施設利用者数	830,944人																				
(令和3年度実績)	753,000人																				
増減	77,944人																				
令和4年度収入額	57,331,648円																				
(令和3年度実績)	48,745,134円																				
増減	8,586,514円																				

高いと考えている。

イ教室およびイベント実施

- ・スポーツ教室32教室

延べ実施回数958回（令和3年度954回）

延べ参加者13,986人（令和3年度12,759人）

- ・イベント

実施回数28回（令和3年度14回）

延べ参加者10,293人（令和3年度4,534人）

③課題および取組み

- ・収支についてはコロナの影響もあり厳しい状況が続いている。令和4年度は光熱費について県から補填があったことで大きなマイナスは避けることができたが、本来実施しなければならない修繕等を保留するなど、運営面に大きな課題を抱えている。対策の一つとして、メインアリーナ改修工事に伴う業務減も考慮した上で、常勤嘱託職員から人員を削減し非常勤嘱託職員で賄うことで人件費の削減を行うこととしている。（令和5年6月から実施）
- ・公園全体の老朽化について、長年の経年劣化による修繕ものが増加している。漏水、設置物の劣化・破損等が目に見えて増えている。財政的な問題から、特に高額なものは速やかな対応ができないのが現状であるが、大きな施設を管理運営するなか、県として今後どのように考えていくのか、利用者への適切な説明等のためにもある程度明確な方針を共有したいと考えている。

④その他

来園者数について、令和2年度から延べ約10万人ずつ伸びている。しかし、平成30年度比較では約23万人減であり、令和5年度のコロナに関する考え方の大きな変動により完全回復することを期待している。

(2) 鳥取産業体育館・鳥取屋内プール 92,447千円 (97,779千円)

令和4年度施設利用見込人数	体育館76,000人 プール49,000人 125,000人
(令和3年度利用見込人数)	体育館70,000人 プール65,000人 (135,000人)

令和4年度収入見込額	26,400千円
(令和3年度収入見込額)	(31,844千円)

(2) 鳥取産業体育館・鳥取屋内プール 93,592,735円 (87,447,662円)

①利用人数および収入増減理由

ア 利用人数

令和4年度施設利用者数	132,525人 (体育館80,734人 プール51,791人)
(令和3年度実績)	126,366人 (体育館76,937人 プール49,429人)

増 減	6,159人
-----	--------

【増減理由】

○体育館

- ・コロナ禍で3年間中止となっていた、食品や住宅産業関係による営利を目的とした展示会利用が複数件あった。また、年度途中で展示会やプロレス興行の追加があり利用者数増につながった。
- ・コロナウイルス感染症によりキャンセル等となっていた大会利用や一般利用が増えたことにより増加。

○プール

- ・9月が昨年に対して平均気温が1度高く、また30度以上の日が13日あるなど残暑が厳しかったこと等が影響し、9月の利用者数が対前年比150%となったことにより増加。
- ・3月下旬以降、日中の気温も高く小中学生や大人の利用が多く増加につながった。

イ 収入 (自動販売機収入含む)

令和4年度収入額	26,625,057円
(令和3年度実績)	21,097,614円

増 減	5,527,443円
-----	------------

【増減理由】

○体育館

利用者数の増加理由と同様の理由により増加。

○プール

利用者数の増加理由と同様の理由により増加。

②事業実施状況

ア施設管理

- ・4月より当日の電話受付を9時から8時30分に変更し利便性を図った。
- ・鳥取県新型コロナ安心対策認証店に登録し引続きコロナ感染対策に努めた。
- ・鳥取城北高校空手部、鳥取中央育英高校レスリング部、鳥取西中学校相撲部に外部講師として職員を派遣し競技力向上に努めた。
- ・鳥取工業高等学校の駐車場ライン引き実習の場として本館駐車場を提供し、県立高校と連携を図った。
- ・施設改善委員会（外部評価委員会）での要望を基に、テニス・バレー支柱用運搬車2台購入及び更衣室のドライヤーのランクを上げて更新し、利便性向上に努めた。
- ・アンケート等を行い、利用者の声を聴きながら対応できるものに関しては対応していき、対応が困難なものは丁寧に説明を行い、理解を得ながら誰もが使いやすい施設運営を心掛けた。
- ・男子個室トイレ全室に、新たにサニタリーボックスを設置した。
- ・杖をついて来館されるお客様のために窓口に杖置アイテムを設置した。
- ・窓口、1Fロビーに防犯カメラ設置し、窓口や施設内のトラブル対応に備えた。
- ・プールの寒さ対策としてジェットヒーターを2台購入し設置した。
- ・会議室、研修室の利用促進のため、貸出用のプロジェクタ・スクリーンを購入した。
- ・高草中学校の職場体験、わくわく高草の受入れを行った。
- ・夏場の室温調整をするため、グリーンカーテンを導入した。

イ教室およびイベント実施

- ・スポーツ教室15教室
延べ実施回数349回（令和3年度378回）
延べ参加者4,826人（令和3年度5,189人）
- ・水泳教室16教室
延べ実施回数539回（令和3年度451回）
延べ参加者5,005人（令和3年度3,808人）
- ・イベント
実施回数9回（令和3年度2回）
延べ参加者466人（令和3年度408人）
※新規イベントとしてフィットネス&ボクササイズ体験、卓球交流会及び

講習会、コア&アジリティリズムトレーニング、TORITAI ワークショップを開催。

③課題および取組み

- ・施設の老朽化が進んでおり、大規模修繕及び緊急性のある修繕は県と連携し修繕を検討し対応。小規模修繕については、職員で直せるものは職員で対応しているが追い付かない状況。今後も大きな修繕にならないように努める。
- ・燃料費、電気代が物価高騰に値上がりし経費が圧迫されている。支出を抑えるよう職員全員が水道、灯油メーター等の確認、電気のオン・オフ等、節減意識をこれまでよりさらに強く努力する。
- ・中期的な課題として、人事異動等による人的変化に対応すべく、職員の資質向上のため、各種研修会への参加や各種資格の取得を促進する。
- ・令和元年度に集熱器を撤去したことで、年間をとおしてボイラーを焚く必要が出てきており、燃料費が増加している。既存の設備である暖房よりも、低燃費で暖房できるヒーターの購入や閉館後にブルーシートを被せることで水温低下を緩和させる措置を講じている。

④その他

- ・プールの建具、設備等老朽化しており、冬季は利用者から寒い、プール水温が低いとご意見をいただくことが多くなってきている。目張り、ヒーターの追加など工夫をしているが、利用者が満足していただける対応ができず、根本的な改修工事が必要と考える。
- ・3年振りに開催された国民体育大会及び2033年鳥取県で開催予定の2巡目国体をより多くの県民の方々に知っていただくきっかけづくりとして、参加章などの展示を行っている。
- ・鳥取県民体育館が令和5年度より一部改修工事により利用できないことから、県民の方々のスポーツ活動の場がなくなることがないように、休館を伴うような大規模工事については県と調整を図っていく。
- ・自主イベント運営について、外部講師に依頼することによりスポーツだけでなく文化系イベントも開催した。
- ・収入増を図るため、競技団体等と連携しトップアスリートのプレーを体感できる公式戦、イベントの計画や、施設利用が遠のいている利用者を利用調整会の案内の送付、学校等へのチラシ配布など利用件数の増加に努める。

(3) 米子市皆生市民プール 73,518 千円 (72,243 千円)

令和4年度施設利用見込人数 87,000人
(令和3年度利用見込人数) (87,000人)

令和4年度収入見込額 22,520千円
(令和3年度収入見込額) (21,300千円)

(3) 米子市皆生市民プール 73,692,885 円 (70,984,121 円)

①利用人数および収入増減理由

ア 利用人数

令和4年度施設利用者数 79,069人
(令和3年度実績) 76,422人
増 減 2,647人

【増減理由】

- ・新型コロナウイルス安心対策認証店として、消毒の徹底や利用者に対し感染予防の協力をお願いするなど、施設内で感染拡大させない取組みを進めた結果、各教室が休止することなく計画どおりに実施できたことによる。
- ・利用料免除者70歳以上89名、障がい者等9名に対し、新たに「無料利用資格者証」を発行したことによる。

イ 収入（自動販売機収入含む）

令和4年度収入額 18,808,027円
(令和3年度実績) 15,439,089円
増 減 3,368,938円

【増減理由】

- ・各教室が休止や返金することなく計画どおりに実施できたことによる。
- ・米子市長に対し「米子市公の施設の管理運営安定事業費補助金」申請を行い2,442,959円の交付を受けたことによる。

②事業実施状況

ア 施設管理

○新型コロナウイルス感染症対策について

- ・新型コロナウイルス安心対策認証として、3回/日の施設内消毒を行うと共に、利用者にマスク着用、手指消毒、更衣室での会話を控えるなどの感染予防対策をお願いした。
- ・関係者が陽性者やPCR検査対象者となった場合は、保健所やコンタクトセンターの指示等により自宅療養等を行うなど出勤を調整し、休館することなく業務を継続した。
- ・スポーツ庁所管「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」が改正されたことに伴い、1月から米子市スポーツ振興課指示に

より利用者に求めていた名簿の提出を廃止した。

- ・3月、マスク着用は個人判断とされたが、職員は感染予防や利用者に不安を与えないようにするため、マスクの着用等を継続した。

○設備等管理について

- ・水質検査などの環境検査や電気設備点検など定期的な検査や点検を継続実施し、異常個所の把握や安全性の維持に努めた。
- ・避難誘導及び消火訓練を行い、防火扉や避難場所の確認あるいは消火器の操作方法を確認した。
- ・燃料費の高騰が続いており、照明点灯時間やボイラー運転時間などプールやトレーニングホール利用者の状況に応じて縮減を進めた結果、電気使用量は前年に比べ16%減少した。
- ・小プール滑り台で児童の踵の皮むけ事案等が発生したため、滑り台を使用中止に、また、プール棟への給水管が破裂し断水したため、一時的にプール営業を休業するなど、休館日等に復旧を進めた。
- ・市民から無断駐車の指摘を受けたため、継続して調査を行ない貼り紙等で注意を行った。また積雪時には除雪を行うなど、駐車場の適正管理に努めた。その他、プール清掃や植栽管理等に適宜取組んだ。
- ・男子個室トイレ全室に、新たにサンタリーボックスを設置した。
- ・鳥取県版環境管理システム(TEAS)の登録事業所として、環境影響活動に係る外部審査機関の審査を受検した。

○利便性の向上

- ・7月、「とっとり施設予約サービス」が本格稼働し、Web上での予約が可能となり、10月期分以降の利用について順次自動抽選を行い、公平公正な予約受付業務に取組んだ。
- ・7月、利用者の利便性向上等を目的に、キャッシュレス決済サービス「paypay」を導入した。

イ 教室およびイベント実施

・水泳教室21教室

延べ実施回数 860回 (令和3年度 698回)

延べ参加者 10,160人 (令和3年度8,964人)

・スポーツ教室9教室

延べ実施回数 430回 (令和3年度 337回)

延べ参加者 3,710人 (令和3年度2,792人)

・イベント

実施回数 35回 (令和3年度 18回)

延べ参加者 185人 (令和3年度 115人)

③課題および取組み

○利用者増加対策

- ・日吉津村及び米子市の一部小学校の全児童を対象に、新年度水泳教室案内チラシを配布した。(児童への配布はR5年4月)

○収入対策

- ・各教室料金の改定を検討し、水泳教室においては小中学生クラス1回あたり510円を760円にするなどの方針を決定した。(R5年4月適用)
- ・企業等2団体のトライアスロン合宿を誘致し、当プールが専用利用された。
- ・自販機事業者の理解を得て、飲料自動販売機1台を24時間利用出来るよう、玄関ホール内から玄関外に移設した。
- ・施設修繕や光熱費の現状について米子市スポーツ振興課に報告し、光熱費の増加に適用できる補助金の案内を受け、補助金交付申請を行った。

○支出対策

- ・照明の点灯時間やボイラーの運転時間等について、利用者の状況や外気温に応じて縮減を行い、光熱水費の節減を図った。
- ・電気使用量の基本料金が増加しないよう、使用中電力量を監視する電力デマンド機の設置を検討した。(R5年4月設置)

○修繕対策

- ・施設設備の経年劣化により、指定管理受託期間中に計画されていない修繕が発生している状況にあるが、指定管理委託料の補正による増額は無いとの米子市の見解であり、別途当初予算要求する必要がある、

④その他

○社会貢献活動など

- ・(公財)日本スポーツ協会が行う「ウクライナへの義援金募集」の取組みに賛同し、受付窓口に募金箱を設置した。
- ・(公社)米子法人会が行う地域社会貢献活動「古タオルの回収」に賛同し、施設で使用しなくなったバスタオルを県西部総合事務所経由で寄贈した。
- ・自動販売機横にペットボトルキャップ回収箱を設置し、回収したキャップをリサイクル業者に持ち込んだ。

○他団体等との連携

- ・(一財)鳥取県水泳連盟の競泳競技大会の競技役員として、職員を派遣した。
- ・県営東山水泳場職員と合同で救命救助訓練を実施し、一時救急処置(BLS)、溺者への接近方法等について確認した。
- ・NPO法人皆生ライフセービングクラブと連携し、小学校で実施されるBLS講習会の講師として、職員を派遣した。
- ・米子市文化振興財団米子児童文化センターと連携し、水泳教室参加者である幼児・児童向けの出前講座の実施について検討調整を進めた。(R5年5月以降実施)

○利用者アンケート等

- ・アンケートで寄せられた「バドミントンコースの増設」は、実施する方針で決定した。(R5年4月増設) そのほか職員の行動等への意見があり、全職員で情報共有し確認した。
- ・利用者から寄せられた「プールコースの設定」は、意見どおりに対応し、また、意見箱に寄せられた「緊急時の利用者把握」は、対応しない旨の回答文を掲示するなど、様々な意見にその都度対応した。

(4) 鳥取県立米子産業体育館 62,630千円 (62,230千円)

令和4年度施設利用見込人数 140,000人
(令和3年度利用見込人数) (139,000人)

令和4年度収入見込額 29,700千円
(令和3年度収入見込額) (29,300千円)

(4) 鳥取県立米子産業体育館 55,402,812円 (50,201,921円)

①利用人数および収入増減理由

ア 利用人数

令和4年度施設利用者数 117,050人
(令和3年度実績) 90,761人

増 減 +26,289人

【増減理由】

- ・新型コロナウイルスによる緊急事態宣言等が緩和され、催事・イベントの開催さらには個人利用が増えたことによる。特にBリーグ、Vリーグ、Wリーグなどのスポーツイベントの開催、企業の催事が大きな増加原因の一つである。

イ 収入（自動販売機収入含む）

令和4年度収入額	18,943,022円
（令和3年度実績）	16,788,923円
増 減	+2,154,099円

【増減理由】

- ・増加の理由は人員増加と同様である。

②事業実施状況

ア 施設管理

- ・利用者の安全性を考慮し、日常点検、定期的な施設点検を行い、点検の結果、職員で修繕が可能な軽微な不具合についてはすぐに対応した。
- ・他施設の発生事故を参考に、同様のことを起こさないよう検証を行った。
- ・利用者アンケートを実施し、ニーズの把握、不適切な対応に対する改善等の判断材料とした。
- ・利用者アンケートよりフィットネスルームに副流煙の入らない工夫をとの声があり、敷地内喫煙場所を体育館南側からサブアリーナ西側に移動した。
- ・全国瞬時警報システム（Jアラート）の定期的な点検を行うとともに、緊急地震速報訓練時に、来館者の協力を得て、避難行動訓練（シェイクアウト訓練）を行った。
- ・近隣小中学校の社会活動に協力した。
- ・T E A S活動を継続的に行い、省エネ、環境への影響に配慮した。またII種登録の更新を行った。
- ・鳥取県施策に協力し、男性用トイレにサンタリーボックスを設置した。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、定期的な消毒作業を行うなど感染対策を継続的に実施した。
- ・2階会議室にWi-Fiを導入し、利用者の利便性向上を図った。
- ・熱中症対策として、WBGT数値の測定、熱中症警報が発令された場合の館内表示、さらに利用者への水分補給、休憩を促すなどの声掛けを行った。また、ホールのWBGTにも注意を払い、冷房基準を設け、適宜冷房運転を行った。

イ教室およびイベント実施

- ・スポーツ教室

延べ実施回数 580回（令和3年度 574回）

延べ参加者 4, 571人 (令和3年度5, 746人)

・イベント

実施回数 1回 (令和3年度 1回)

延べ参加者 16人 (令和3年度 19人)

③課題および取り組み

<課題>コロナ渦における収入減及び利用者数減

- ・(株)バンダイナムコ島根スサノオマジック、鳥取県バレーボール協会との連絡を密にし、B1リーグ、Vプレミアリーグで活躍するトップアスリートのプレーを体感できる公式戦や教室を引き続き開催してもらえるよう努めた。
- ・収入増のためには、アリーナに比較して稼働率の低い会議室の利用促進が課題であり、HPやFacebook等でのPR、館内スポーツ利用者へのPR掲示を行い、会議以外の利用も含め広報した。
- ・減免適用となる中・高体連の大会等、主催者側は費用負担がないため、会議室等も含めて場所等を多めに、また時間も長めに押さえる傾向にある。効率的な稼働となるよう内容等について主催者側担当者と入念な打ち合わせを行っている。

<課題>フィットネスルーム トレーニング機器の老朽化

- ・フィットネスルームのトレーニング機器の故障、消耗が頻繁に発生し、現在消耗品的な部品の交換で対応できる不具合で納まっているが、主動部分、制御機能等が故障した場合については、今後更新する必要性に迫られることになる。高価であるためフィットネスルームの存続も含めて今後の運営方法を検討中。

<課題>新体育館構想に係る職員の人事問題

- ・新体育館構想により、今後の体育館存続の方向が不透明な中、職員のモチベーションを下げることなく利用者に満足していただける施設運営に心がけている
- ・中期的な課題として、人事異動等による人的変化に対応すべく、研修会や講習会へ積極的に参加し、職員の資質向上と必要な資格取得等に努めている。

④その他

- ・熱中症対策の取り組み状況を熱中症予防声かけプロジェクト「ひと涼みア

(5) 鳥取県立武道館 80,188 千円 (80,226 千円)

令和4年度施設利用見込人数	111,000人
(令和3年度利用見込人数)	(109,000人)
令和4年度収入見込額	12,940千円
(令和3年度収入見込額)	(12,970千円)

- ワード2022」に応募。後日、スポーツ部門 優良賞を受賞した。(5年連続)
- ・1階ホールの活用として、鳥取県栄養士会の展示を行った。その際、次年度に向けてスポーツと栄養に関する展示を定期的に行ってもらおう働きかけ、実施する運びとなった。
 - ・コロナ感染拡大の減少及び非常事態宣言等の解除により、大会や催事が昨年以上に戻りつつあることに加えて、遠慮がちだった一般の利用者も戻ってきはじめた。
 - ・新体育館建設に向けて、県の方針により営繕関係の要望が事故、災害につながる緊急性のあるものを除いて、今後ストップする状況にある。これにより利用者への利便性向上の対応が低下していく不安があるが、施設側で出来るようなものについては最大限努力し修繕等を行った。

(5) 鳥取県立武道館 78,311,529 円 (73,909,619 円)

①利用人数および収入増減理由

ア 利用人数

令和4年度施設利用者数	96,615人
(令和3年度実績)	70,187人
増 減	26,428人

【増減理由】

- ・新型コロナの影響により昨年度は大会等の中止が多かったが、今年度は全体的に新型コロナの規制が緩和され、大会等で有観客での開催が増加したため利用者の増となった。

イ 収入 (自動販売機収入含む)

令和4年度収入額	12,685,305円
(令和3年度実績)	10,237,887円
増 減	2,447,418円

【増減理由】

- ・施設利用料、教室・イベント、自販機とも増加である。利用者の増加に伴い、利用増減理由と同様の理由により利用の増加により収入が増加した。

②事業実施状況

ア施設管理

- ・4月に鳥取県新型コロナ対策認証事務所へ登録し、感染予防に努めた。
- ・県の施策であるとっとり予約システムが更新されたことに併せ、インターネットからの申込や予約手続きを行い、手続きの簡素化を行った。
- ・短期教室として小中学生剣道強化合宿を開催し武道の普及を行った。
- ・男子トイレにもサンタリーボックスを設置し、誰でも利用しやすい環境に努めた。
- ・ミライロ ID 登録を行い、障がい者手帳をスマホで登録されている方の本人確認をスマホできるようにした。
- ・植栽管理を職員で行い、館周辺の美化に努めた。
- ・夏場の冷房効率の向上と環境に配慮し、事務室外にグリーンカーテンを設置をした。
- ・武道団体全体での鏡開き式を予定していたが新型コロナ感染拡大防止のため、各団体の初稽古会を各会場で分散し開催した。
- ・武道団体と協力し武道合同体験会を、武道未経験者を対象に武道の普及振興に努めた。
- ・武道体験会や教室の受付をインターネットで申込を行えるようにし利用者の利便性を高めた。
- ・各競技を専門とする職員を各大会等に審判員や講師として派遣し各競技団体へ協力した。

イ 教室およびイベント実施

- ・スポーツ教室
延べ実施回数 1, 166回 (令和3年度987回)
延べ参加者 8, 385人 (令和3年度7, 384人)
- ・イベント
実施回数 8回 (令和3年度6回)
延べ参加者 1, 347人 (令和3年度982人)

③課題および取組み

- ・研修室等の窓に網戸がなく換気のため窓を開けると虫が入ることが課題であった。今年度は研修室(3)にも設置し対応した。

- ・燃料費が高騰していることが課題である。利用後、速やかに消灯や空調の無駄をなくすよう取り組んでいる。
- ・施設の老朽化が課題である。日々の巡回で施設を点検し、軽微な修繕については職員で行っている。
- ・コロナ禍で利用が不安定であることが課題である。安全・安心に利用していただけるよう消毒等の感染対策の徹底に取り組んでいる。

④その他

- ・3月に「とっとり SDG s パートナー」へ登録し持続可能な社会の実現に取り組んでいる。

事業計画	実施状況
<収益1>施設関連事業 84,870千円(88,866千円)	<収益1> 78,948,146千円(81,641,450円)
1 体育施設の有効な活用と適正な管理運営を行い、県民の体力増強とスポーツ振興を図る。	
(1) 鳥取県立倉吉体育文化会館 76,110千円(81,673千円)	(1) 鳥取県立倉吉体育文化会館 70,770,836円(74,244,773円)
	①利用人数および収入増減理由
	ア 利用人数
令和4年度施設利用見込人数 198,000人 (令和3年度利用見込人数) (196,000人)	令和4年度施設利用者数 89,589人 (令和3年度実績) 74,057人
	<hr/>
令和4年度収入見込額 20,437千円 (令和3年度収入見込額) (20,337千円)	増減 15,532人
	【増減理由】
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症対策として1件あたりの利用人数は前年度と変化がなかったものの、利用件数が前年度より791件増加したため、それに比例して利用人数が増加した。
	イ 収入(自動販売機収入含む)
	令和4年度収入額 15,342,767円 (令和3年度実績) 14,706,471円
	<hr/>
	増減 636,296円
	【増減理由】
	<ul style="list-style-type: none"> ・利用件数が前年度より増加したため、施設使用料収益等の収入が増加した。
	②事業実施状況
	ア施設管理
	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館アリーナ、ボルダリングルーム等に監視カメラを設置し、安全管理に努めた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・中研修室、小研修室1、小研修室2にLANケーブルを設置し、リモート会議等の利便性向上に努めた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の異常箇所を早期に発見し、利用者の安全な利用が確保されるように迅速な修繕に努めた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症対策として、利用後の消毒作業や状況に応じた感染症対策を利用者に案内するなど柔軟な対応に努めた。

- ・応急手当推進事業として、年2回の訓練用AEDを使用した救命講習を実施し、不測の事態に対応できるように訓練を行った。
- ・除草作業や遊歩道、遊休地に来館者の癒しとなるようにプランターや花壇の整備を継続して行い、施設の美観に努めた。
- ・ボルダリングルーム外にグリーンカーテンの設置やこまめな消灯をするなど環境に配慮した管理運営を行った。
- ・ボランティア団体（ワーカーズコープ）による清掃活動を受け入れた。
- ・西郷小学校の町探検活動を受け入れた。
- ・小学生の運動能力向上を目指し、関金小学校で投擲教室を実施した。
- ・地域の公民館に認知症予防体操や楽しく体を動かす運動を中心とした外部指導を行った。

イ教室およびイベント実施

・スポーツ教室 17 教室

延べ実施回数 428 回 (令和3年度 323 回)
 延べ参加者 3,142 人 (令和3年度 2,437 人)

・文化教室教室

延べ実施回数 179 回 (令和3年度 180 回)
 延べ参加者 1,193 人 (令和3年度 1,390 人)

・イベント

実施回数 8 回 (令和3年度 5 回)
 延べ参加者 593 人 (令和3年度 420 人)

③課題および取組み

○利用者の声

- ・共有部分のソファに埃がたまっているというご指摘を受け、清掃業者への指導と見回り時の確認を行い、施設を清潔に維持するように努めた。
- ・体育館利用者からアリーナ扉を常時開放していると眩しくてプレーに支障が出るとの声を受け、換気のためであり適宜開放することで対応した。
- ・ステージ脇のカーテンが劣化し、眩しいとの声を受け、令和5年度中に発注予定。
- ・駐車場の間隔が狭い、駐車場のラインが見えにくいとの声を受け、営繕要望を出し、引き続き県との協議を行う。

(2) 倉吉自転車競技場の管理運営 8,760 千円 (7,193 千円)

- ・倉吉自転車競技場管理運営
職員3名を配置し管理運営を行う。

○課題

- ・体育館アリーナの床面が劣化してきており、張替え等の検討を行っていく必要がある。修繕に係る大幅な経費が予想されるため、県等と協議を行っていく。

(2) 倉吉自転車競技場の管理運営 8,177,310 円 (7,396,677 円)

- ・管理体制
平成29年度より本会にて、直接管理。
場長1名 (倉吉体育文化会館館長が兼務)
次長1名 (倉吉体育文化会館次長が兼務)
職員3名
- ・サイクリングフェスティバルの開催
春のサイクルフェスタ (大雨のため中止した)
期 日 令和4年4月29日 (金・祝)
会 場 倉吉自転車競技場
秋のサイクルフェスタ
期 日 令和4年11月3日 (木・祝)
会 場 倉吉自転車競技場

<収益2>自動販売機設置事業 1,438千円(1,502千円)

本会が管理する公の施設に、利用者の利便性の向上を図るため自動販売機を設置し、自動販売機手数料による収益事業を実施する。

(単位：千円)

	布勢総合運動 公園	鳥取産業体 育館 鳥取屋内プ ール	皆生市民プ ール	米子産業体 育館	武道館	合計
収入	7,545 (7,545)	1,800 (2,606)	720 (570)	2,150 (2,100)	2,810 (2,810)	15,025 (15,631)
支出	755 (754)	180 (260)	72 (57)	150 (150)	281 (281)	1,438 (1,502)
収益	6,790 (6,791)	1,620 (2,346)	648 (513)	2,000 (1,950)	2,529 (2,529)	13,587 (14,129)

()内は前年度数字

<収益2>自動販売機設置事業 1,294,332円(1,228,005円)

自動販売機設置状況

(令和4年4月1日～令和5年3月31日実績)

(単位：円)

	布勢総合運動 公園	鳥取産業体 育館 鳥取屋内プ ール	皆生市民プ ール	米子産業体 育館	武道館	合計
収入	8,155,293 (6,986,632)	1,581,244 (1,434,759)	681,108 (676,516)	1,341,702 (998,813)	2,377,978 (2,341,377)	14,137,325 (12,438,097)
支出	747,892 (703,859)	144,516 (130,399)	62,505 (90,128)	122,748 (90,782)	216,671 (212,837)	1,294,332 (1,228,005)
収益	7,407,401 (6,282,773)	1,436,728 (1,304,360)	618,603 (586,388)	1,218,954 (908,031)	2,161,307 (2,128,540)	12,842,993 (11,210,092)

()内は前年度数字